

# “くらにわ”が地域の賑わいをつなぎ、 蔵の街なみにゆとりとふくらみを創出

喜多方中心市街地地区

喜多方市

喜多方建設事務所  
計画期間：H19～

## 地域づくりの方針

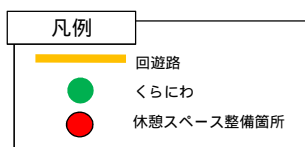
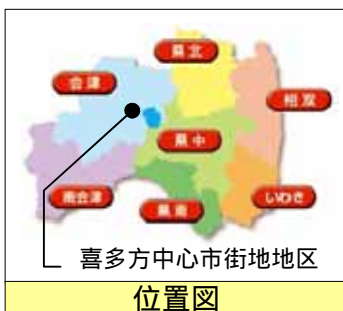
ラーメンと蔵のまちとして知られる喜多方の魅力をより一層たかめ、観光客がリピーターとなり、喜多方中心市街地の活性化につながるような地域づくり

## 主な事業内容

民・学・官の協働による「くらはく」（蔵のまちづくり博覧会）を開催し、まちづくりのビジョンの共有化を図っています。  
 今後は、道路事業等と一体となり、**まちなかを回遊する際の休憩スペース等を整備**していく予定です。



## 事業概要図



## 地域の現状

喜多方は、扇状地で水はけが良く、山から運ばれた豊かな土壌や地下水により、かつては周辺の農村の農産物などを売る市場として発展しました。江戸時代には醸造業の盛栄により、蔵が建ち並び、明治時代に養蚕業が起り、更に蔵が増加しました。その後大火がありました。蔵だけが焼け残ったことから、住人の蔵に対する意識が高まり、蔵が多く建てられるようになりました。

現在はラーメンと蔵のまちとして知られるようになりましたが、後継者不足や資金面から困難となっている蔵の保存や観光客が休憩できるスペースの確保などの課題を抱えています。

## 地域づくりのあゆみ

平成16年	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域イベント「第1回21世紀シアター」、「第1回蔵してる通りフェスティバル」開催（いずれも以降毎年開催）。</li><li>・地元と東京大学による空き蔵を利用した「初代まちづくり寄合所」開設。</li><li>・東北地方の大学によるまちづくりコンペ「まちづくり学会（まなびあい）」開催。</li></ul>
平成17年	<ul style="list-style-type: none"><li>・商店街イベント「第1回レトロ横丁」開催。</li><li>・喜多方まちづくり研究会発足。「まちなか全体プラン」提案。</li></ul>
平成18年	<ul style="list-style-type: none"><li>・小田付郷町衆会、喜多方商業高校、東京大学による蔵の利活用プロジェクト「まちづくり塾」開催。</li><li>・仲町景観協定締結。ふれあい通りアーケード撤去決定。</li></ul>
平成19年	<ul style="list-style-type: none"><li>・小田付のれん作りワークショップ開催。</li><li>・中学生による蔵調査実施。</li><li>・民、学、官の協働による「くらはく（蔵のまちづくり博覧会）」開催。</li></ul>
平成20年	<ul style="list-style-type: none"><li>・蔵のまちづくり協議会が喜多方市長へ「喜多方のまちづくりに関する提言書」提出。</li><li>・「地方の元気再生事業」による各種取り組みの実施。</li></ul>

## 地域づくりを進めてきた中での課題及び解決策

### （市担当者）

喜多方市では、これまでもそれぞれの地域で各々の団体が個別にまちづくり活動を展開してきました。これらまとめて一つの方向を示すため、喜多方蔵のまちづくり協議会を組織し、「くらはく」を通じて**ビジョンの共有化**を図ることができました。

また、街歩きのポイントとなる道路に花をいっぱい植えて観光客をおもてなしする、という「**おもてなしの花小径**」構想は、平成18年7月に市主催で実施した「おもてなし向上セミナー」講師の権代美重子先生の講演内容がヒントとなりました。「くらはく」で、なにか市民参加型の取り組みができないか議論していたときに、2つの蔵通りを結ぶ「おもてなしの花小径」という発想が浮かび、観光協会の取り組みとすることにいたしました。

しかしながら、予算はない、人手もない、時間もない、花もない、という中で、極めてあわただしい取り組みとなりました。まず最初に、関係町内の区長さんに構想を話して合意をもらい、その後通りに面する住民全員に当たって同意を取り付けました。

**うれしかったのは、この歴史的な通りにもう一度光を当てたいという官の思いに住民の方々が答えてくれたことでした。特に一部の住民は自ら動いて自分の家の花を持ち出したり、家の中に立ち寄らせて、自慢の品を公開し、お茶の接待などを含めご近所ぐるみで訪れる方々をおもてなししてくれたことです。**それでも絶対的に花の数が足りなかったため、民間補助金を活用して豆菊の花を100鉢買いました。さらには、小学校や幼稚園を回ってプランターを借り、「くらはく」開始前日によく並び揃えることができました。

「くらにわ」の植栽やJR喜多方駅での「お迎えモニュメント」は、地元の造園業や花屋さんの協力をいただき、プロによる空間が演出できました。特に花屋さんのアレンジは店舗でも好評を得たとご意見をいただきました。

蔵めぐり観光客へのおもてなし用に配置した生花の生けこみは、観光協会で行いましたが、開催期間が長いので途中でのメンテナンスに時間、労力を要しました。

「おもてなしの花小径」の事業を通じて、地区住民が自らの地区に目を向けるようになり、今年には住民自らが自主的に範囲を広げて「おもてなしの花小径」事業に取り組み、そばのプランター800鉢を植えたのを見て、その広がりを実感しました。



## 事業の効果

### 「くらはく」の成果

平成19年度の「くらはく」の開催により、多くの方が訪れ、喜多方の蔵や食べ物、人の良さといった魅力を発信できました。このことにより、さらなる来訪者の増加が期待できます。

新たに、ふれあい通りで百円商店街を開催するなど、商店街の活性化を図る取り組みが行われています。

くらはく(まちづくりフォーラム)



### まちづくり協議会とまちづくりに関する提言書

個々に活動していた団体が、喜多方市全体の地域発展を目指すため「喜多方蔵のまちづくり協議会」を組織。「くらはく」の成果を踏まえたまちづくりに関する提言書を喜多方市長へ提出しました。

### 「地方の元気再生事業」へ発展

地元住民の地域づくりに対する気運が高まり、内閣府の「地方の元気再生事業」へ応募し採択されました。平成20年度に事業を活用した様々な取り組みが行われました。

内閣府の地域活性化統合本部より、「優れた取り組み」との最高評価を受けました。(12件/全120件)

### 新たな交流連携

「会津北部・置賜南部交流推進懇話会」(米沢市、喜多方市、北塩原村)では、以前から交流連携した取り組みを行っています。

雄国地区の懇談会や、会津まほろば街道の懇談会のメンバーとして、市街地と農村部の連携策について意見交換を行っています。

## 元気づくりの立役者たち

喜多方ラーメン



嶋新の蔵



小田付通りの蔵並



三津谷の登り窯



## 実施した感想

### (県担当者)

活動するに当たって、地域の特定の人に負担をかけてしまったと思います。

### (町担当者)

地域や県の方と一緒に考え、一緒に活動したことにより一体感が生まれたと思います。

### (地区住民)

機会を得たことで各団体が目的をもって取り組んだため協働意識ができました。なにをやるにも人手不足の面は否めないが、活動を通して徐々に増えてきました。地域づくりを続けていくために必要なのは、達成感と資金面の助成だと思っています。



江花圭司さん

## 地域の課題・今後の展望

これまでの様々なまちづくりの取り組みを継続的に実施していく必要があります。また、観光客の多くが喜多方駅、市役所周辺からの出発していますが、出発地より東部の小田付通りに人が流れていない状況であることから、わかりやすいサインや案内などが必要です。

今後は、路地や水路を活かしたまちづくりの検討や取り組みが有効と考えています。

## 取り組みの状況



おたづき蔵通りへ のれん掲示



レトロ横丁



ベロタクシーの運行



蔵してる通りフェスティバル



まちづくり寄り合い所



まちづくり語り合い

## 関係機関

福島県喜多方建設事務所 企画調査課  
喜多方市役所 まちづくり推進課  
喜多方蔵のまちづくり協議会

TEL : 0241 - 24 - 5707  
TEL : 0241 - 24 - 5283  
TEL : 0241 - 24 - 4541  
(NPOまちづくり喜多方)

# 川とのふれあいの場を提供 ～川と“親しむ”“遊ぶ”“学ぶ”～

伊南川沿川地区

南会津町・只見町

南会津建設事務所  
計画期間：H17～

## 地域づくりの方針

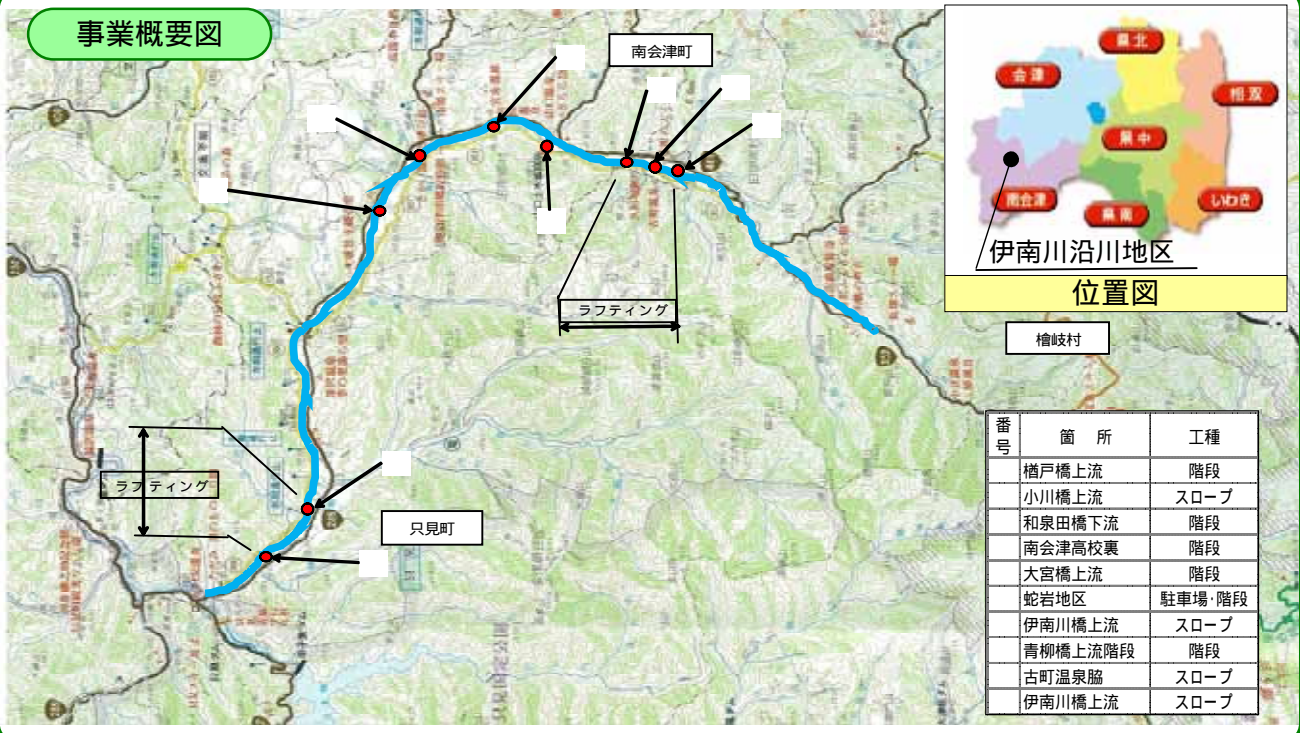
伊南川の保全と利活用の観点から  
「残そう、活かそう、清流伊南川：  
人と魚と原風景と」  
を基本理念とした地域づくり

## 主な事業内容

川への進入を容易にするために  
**階段工、駐車場**  
を整備しました。



## 事業概要図



## 地域の現状

南会津地方の西部に位置する伊南川沿川の住民は、昔から尾瀬を源流とする母なる清流・伊南川の豊かな恵みにあずかって暮らしてきました。鮎釣りなどの観光資源として定着していますが、河川改修などにより河川環境が悪化。魚類の種類も量も減り、釣り客は年々減少してきております。

一方、最近では自らが伊南川の保全と利活用を真剣に考え、そして行動する地元の熱心なNPOなどの民間団体も増えてきており、地域の河川への関心は非常に高まってきています。

このような背景から、地域主体のもと連携を密にしながら、伊南川を観光産業の核と位置づけ、再生と利活用の観点から、ソフト、ハード両面の整備を展開し、交流人口の拡大と地域活性化を図るための支援をする必要があります。

## 地域づくりのあゆみ

平成16年	・従来の治水安全度を確保しながら、地域の持続的な発展につながる「昔の伊南川」を地域の人々の手で取り戻し、釣りや川遊びで川に親しみやすい環境を創り、交流人口の拡大を目指すため、地域住民・地元団体と連携した計画策定にむけたワークショップを只見・南郷・伊南地区で開催。
平成17年	・“伊南川げんき会”設立。 ・伊南川の宝物聞き取り調査実施。 ・川のクリーンアップ作戦と鮎の試し釣りをセットで開催。
平成18年	・勉強会「どうなってるの伊南川」を開催。 ・きれい伊南川大作戦。
平成19年	・きれい伊南川大作戦。
平成20年	・伊南川筋グリーンツーリズム勉強会、川あそび講習会、伊南川“川びらき宣言”、「伊南川の四季」絵はがき配布、伝統的川遊び・環境学習講座、お魚はかせと魚とり！、川おさめ・河川清掃と芋煮会など“伊南川げんき会”が中心となり開催。

## 地域づくりを進めてきた中での課題及び解決策

意見交換会が、施設整備だけの要望の場とならないように、意見交換会は室内だけでなく、現地を歩いて地元での利用状況と利用者の声を聞くことで整備から管理への意見交換が活発化しました。また、地元事務局の活動は、積極的に活動される事務局・世話人がいることでスムーズ化しました。

まちづくり推進課で開催した“まちづくり交流会議”は、活動の参考になるとともに、他で活動している人との交流の輪が出来、地元のモチベーションが高まるため、こういう他地域との交流の機会の提供も有効であると思います。

## 実施した感想

### (県担当者)

施設整備においては、偏りが無くバランスよくすることが重要だと思います。また、地域づくりは人づくりであり、それには時間がかかるため、じっくり地域のペースで行っていくことが重要だと思います。

### (町担当者)

川に関係する様々な団体・個人が立場や利害を超えて連携する機会ができたことが素晴らしい。住民主導の各団体間の連携、行政との連絡調整などは今後の伊南川を核とした地域振興に明るい希望をもたらすものだと思います。

### (地元住民)

伊南川げんき会山内聖子さん、齋藤和夫さん  
地域づくりは地元住民が楽しみながら行うことが大切だと思います。



伊南川げんき会  
山内聖子さん、齋藤和夫さん



事業の効果

川を利用した川遊び、勉強会



ふるさとふれあい教室



川遊び



南会津高校で勉強会

きれいな伊南川大作戦

「日本一遅い鮎釣り解禁」。伊南川の鮎試し釣りと伊南川の清掃、草刈をセットにツアー客募集（募集人員20名）。地元釣りの会メンバーと親睦もあります。



伊南川絵図作成



元気づくりの立役者たち

清流 伊南川



地域の人々



地域の宝(元気な子供達)



地域の課題・今後の展望

伊南川へは、着実に訪れる人の数が増加しています。今後は、所得の向上につながるような事業展開を考えていき、関わる人を増やしていくことと、流域という意味で上下流の地域間交流連携が必要だと考えています。

## 整備内容及び利用状況

### 蛇岩地区



駐車場

駐車場に止め



階段を降りると

階段工



伊南川で芋煮会

伊南川とふれあえる



階段工

### 利用状況

#### (利用者の声)

川の進入がしやすくなったことで、子供会のイベント、鮎祭り、環境学習等が開催され人々が集いやすくなりました。  
釣り客が河川に降りやすくなり、好評です。

### 管理状況

川への進入路（階段、斜路）は、漁協、地元が草刈り、清掃を実施しています。

### 関係機関

福島県南会津建設事務所 河川砂防課  
南会津町 建設課  
伊南川げんき会(事務局 南会津エコワークス)

TEL : 0241 - 62 - 5331  
TEL : 0241 - 62 - 6230



# 渓谷美と安全に安心して楽しくふれあう ～高瀬川渓谷を歩こう～

高瀬川渓谷地区

浪江町、葛尾村

相双建設事務所  
計画期間：H16～

## 地域づくりの方針

“高瀬川渓谷”等の自然との共存や良好な景観の形成を図るとともに“大堀相馬焼”などの観光資源を連携させた“おもてなしの心”による地域づくり

## 主な事業内容

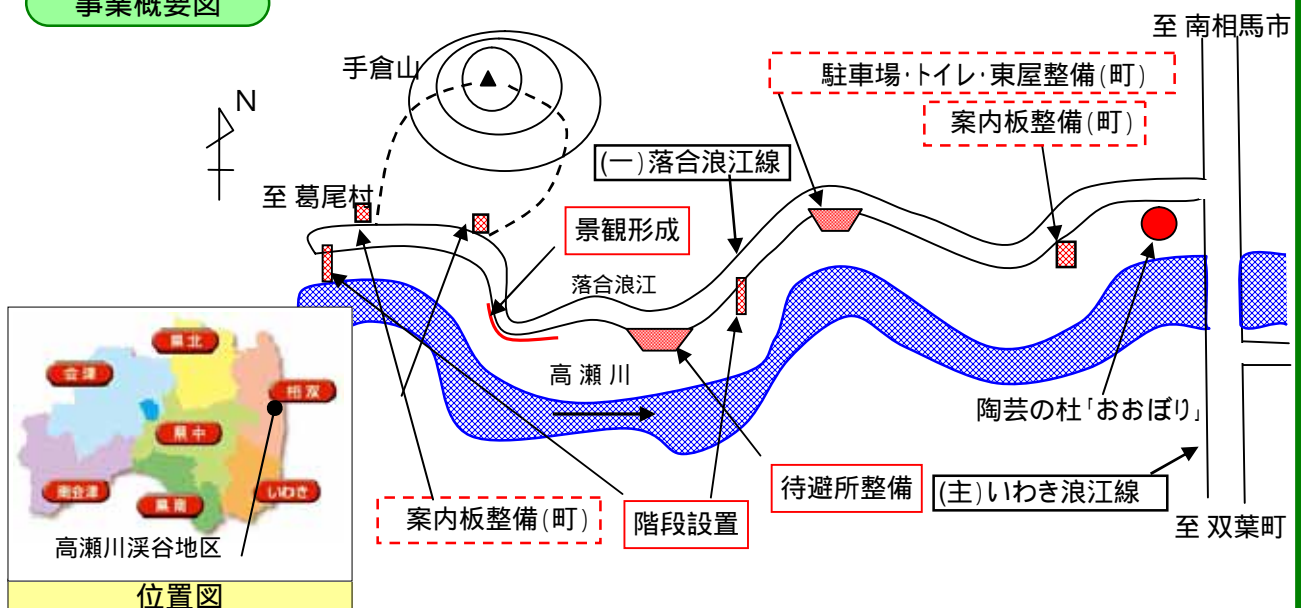
高瀬川渓谷に訪れる方を“おもてなしの心”で迎え、安全に安心して、楽しくふれあうために、

**待避所や防護柵**

を整備しました。



## 事業概要図



## 地域の現状

高瀬川渓谷は、阿武隈高原中部県立自然公園内に位置し、年間を通した「美しい姿を表す渓谷美」や「癒しを提供する清流」など、貴重かつ重要な観光資源となっています。また、周辺には、「大堀相馬焼」「泉田川築場」「請戸漁港」「中心市街地で行われる十日市、ストリートフェスタ、月いち屋台村」など、いずれも双葉郡を代表する重要な観光資源が数多く存在します。

これらの魅力ある地域資源を広く周知するとともに、来訪者へのもてなしの体制づくりを地域一体となって進め、地域の活性化及び交流人口の拡大が望まれています。

## 地域づくりのあゆみ

- |       |  |
|-------|--|
| 平成16年 | ・周辺行政区長等からなる54名の「高瀬川渓谷を育む会」を設立。<br>・ハード対策として景観形成（高欄・防護柵・標識更新）を実施。                                    |
| 平成17年 | ・住民協働のワークショップを開催、「地域づくり計画（整備計画）」を策定。<br>・地域づくりの活動範囲を流域全体に拡大するため、浪江・葛尾両住民15名による「高瀬川・請戸川流域地域づくりの会」を発足。 |
| 平成18年 | ・「高瀬川渓谷散策ガイド（マップ）」「ポスター」「ニュースレター」の作成、配布。<br>・浪江町で駐車場・トイレ・東屋・案内看板整備をH18電源立地交付金を活用し実施。                 |
| 平成19年 | ・「高瀬川・請戸川流域地域づくりの会」主催で宿泊体験ツアーを実施。<br>・景観形成（高欄5橋・防護柵・待避所4箇所・標識更新）を実施。                                 |
| 平成20年 | ・「高瀬川・請戸川流域地域づくりの会」主催で高瀬川渓谷散策イベントを実施。<br>・渓谷見どころ案内看板を設置。   |

## 地域づくりを進めてきた中での課題及び解決策

### （県担当者）

高瀬川渓谷地区に人を呼び込む活動に取り組んでいるが、沿線の県道落合浪江線は、落石等の交通危険箇所が随所にあり、これらの抜本的な解消は現実的に不可能であり、現在は散策イベント等のコースになる最小限の危険箇所対策を行っている。このような危険箇所が数多くある地域にも関わらず、積極的に人を呼び込む活動を行っている現実に悩んでいます。

### （地元住民）

話し合った地域づくり活動を実行するためには法の制約が多々あり大変だった。例えば宿泊体験では、旅行業法上の制約で、不特定多数の人にチラシ等を使用して参加者を募集することが出来ず、地域づくりの会の会員の友人・知人から参加者を集めました。（特に県外からの参加者を集めるのに苦労しました。）

また、散策イベントを実施した際、参加人数が予定より多く、また悪天候であったため、安全管理等の運営を会メンバーだけで行うのは難しかった。結果的には役場職員に応援をお願いしたため、スムーズにイベントを進行できました。

## 実施した感想

### （県担当者）

地域の方たちの中へ入り込み、一緒に活動し、地域づくりについて考える機会を得られたことにより、これまでの業務では味わうことは出来ない貴重な体験が出来ました。これにより、今後他業務を行っていく上で考えの幅が広がったと思います。

### （町担当者）

他市町村、県関係者と連携して地域づくりに取り組めたことは大変良かったです。高瀬川渓谷周辺整備としてH18電源立地交付金を活用し、駐車場・トイレ・東屋・案内看板整備を実施し、近隣住民ならびに観光客に喜ばれたことは、大変うれしく思います。

### （地元住民）

宿泊体験、高瀬川渓谷散策イベントを実施したところ、参加者から「また参加したい。」「地元人間だが、知らないことがたくさんあり新たな魅力を発見することが出来てよかった。」などの喜びの声を多く聞いたことは大変良かったです。

## 事業の効果

### 春のウォーキング



### 秋のウォーキング



#### 高瀬川渓谷散策イベントを開催

春と秋に開催。参加者はいずれも約60人程度でした。  
秋のウォーキング時は、地元の行政区によりとん汁が振る舞われました。

### PR活動及びアンケート調査



#### 高瀬川渓谷の魅力を積極的にPR

毎年5月のゴールデンウィークに浪江町の『陶芸の杜おおほり』で行われる「大せとまつり」に参加し、高瀬川渓谷写真展、散策ガイドマップの配布等、高瀬川渓谷のPR活動及びアンケート調査を実施しました。

#### “おもてなしの心”で道路環境美化活動

「高瀬川渓谷を育む会」で行っている一般県道落合浪江線の環境美化活動に「高瀬川・請戸川流域地域づくりの会」も参加し、活動範囲を拡大した。ゴミ拾い、沿道の草刈り等を実施しました。

### 道路環境美化活動



## 元気づくりの立役者たち

### 高瀬川渓谷美



### 大堀相馬焼



### 泉田川築場



### 請戸漁港



## 地域の課題・今後の展望

歴史的・文化的価値がある“大堀相馬焼”と、四季折々様々な顔を見せる“高瀬川渓谷”の連携からなる地域づくりを当面の展開とし、その後「街・海」まで連携させた地域づくりの展開を考えています。

地域づくりの会のメンバーは行政機関を除くと50～60代の方々に構成されており、年齢層が高く、今後、地域づくり活動を継続していこうと考えた場合、若い世代を取り込み、活動を引き継いでいく必要があります。

## 整備内容及び利用状況



待避所工:待避所を設置することで、安全にすれ違いができるようになりました。



防護柵工:防護柵を設置したことで、来訪者が安全に通行できるようになりました。



低高欄更新:高欄を更新することで来訪者が安全に通行できるようになりました。

### 利用状況

#### (利用者の声)

県道は道幅が非常に狭く、対向車がいる時はすれ違いが困難でした。また、ガードレールも設置されていない所が何カ所もあり転落の危険性もありました。この事業で整備していただいたことにより、危険性がある程度解消され感謝の声を多く聞いています。

### 管理状況

「高瀬川溪谷を育む会」「高瀬川・請戸川流域地域づくりの会」が定期的に草刈り、ゴミ拾い等地域づくり活動として実施しています。

### 関係機関

福島県相双建設事務所 企画調査課  
浪江町 建設課  
葛尾村地域振興課  
高瀬川・請戸川流域地域づくりの会 (事務局 浪江町建設課)

TEL : 0240 - 26 - 1228  
TEL : 0240 - 34 - 0208  
TEL : 0240 - 29 - 2111

# 温泉街活性化のため、温泉を活用した交流広場 “鶴のあし湯”を整備

常磐湯本地区

いわき市

いわき建設事務所  
計画期間：H16～

## 地域づくりの方針

いわき湯本温泉、童謡（野口雨情）等の観光資源を活用し温泉街に憩いと潤いの空間を創出し地域の活性化をはかる

## 主な事業内容

地域の交流の場、癒しやくつろぎの場として提供するため、足湯としても利用できる  
**交流広場“鶴のあし湯”**  
を整備しました。



## 事業概要図



## 地域の現状

いわき湯本温泉は愛媛の道後温泉や兵庫の有馬温泉と共に「日本三古泉」と言われており、また、江戸時代には浜街道唯一の温泉宿場町として栄え、県内外から多くの来訪者が訪れるいわきの重要な観光拠点の一つとなっています。

地域住民の生活する場である中心市街と従来の温泉街とが一体となった街で、従来の商店街の空洞化も進んできており、また、近年の来訪者の減少等により、温泉街としての賑わいもあまり感じられなくなっていました。

## 地域づくりのあゆみ

- 平成15年 ・ “夢わくわくゆもと市民会議” が『常磐湯本地区グランドデザイン』を策定。
- 平成16年 ・ いわき市が『常磐湯本地区グランドデザイン』をもとにいわき市都市計画マスタープラン(常磐湯本地区まちづくり計画)を策定。  
・ “花と星の丘公園”を整備。  
・ いわき花と緑の会といわき建設事務所で、うつくしま道のサポート制度締結。
- 平成17年 ・ “鶴のあし湯”を整備。  
・ “鶴のあし湯”を愛でる会といわき建設事務所で、うつくしま道のサポート制度締結。
- 平成18年 ・ 常磐湯本地区についての意見交換を目的に“湯のまち懇談会”を開催。
- 平成19年 ・ 『常磐湯本地区グランドデザイン』の実現に向けた方策を検討するために“湯のまち懇談会”を開催。  
・ 地元団体主催による第1回フラオンパクが開催され、“鶴のあし湯”が開会式、閉会式に利用される。  
・ “鶴のあし湯”の隣に“童謡館”がオープン。
- 平成20年 ・ 『常磐湯本地区グランドデザイン』の実現に向けた方策を検討するために“湯のまち懇談会”を開催。  
・ 第2回フラオンパクを開催

## 地域づくりを進めてきた中での課題及び解決策

### (市担当者)

住民が「ないもの」(不足しているもの・不満なもの)を意識するのではなく、「あるもの」(自慢できるもの)を意識できるような取り組みをすることが重要だと思いました。

## 実施した感想

### (県担当者)

地域の人々が想像していたよりも、地域づくりに一所懸命である事とその行動力に驚きました。地域の方々は、色々なアイデアが持っており、すごく参考になりました。色々な方から様々な刺激を受け、充実した日々でした。

## 元気づくりの立役者たち

温泉神社



童謡詩人“野口雨情”



童謡館



御幸山公園



## 事業の効果

### 常磐湯本温泉街回遊性の向上

- 温泉街を散策する宿泊客が増えてきており、散策の際、足湯が好評で、温泉街内にある3つの足湯をはしごする観光客が増えています。

(商工会議所からの情報提供)

### さまざまな地域活動の場として活用

いわきフラオンパクが開催され、開会式、閉会式で使用されています。また、“鶴のあし湯”を使ってイベントを開催する等、地域が考えていたイベントを実現するきっかけとなっています。

湯けむり縁日



いわきフラオンパク開会式



### 多くの人が訪れ賑わいを見せる童謡館



### 童謡館と一体となったおもてなし空間の創出

H19.12に“鶴のあし湯”の隣に地元団体が童謡館を整備しました。

H20にいわき市が間をつなぐための橋を整備したことにより、直接行き来ができるようになり、交流人口のさらなる拡大が期待されます。

### 他地域との交流連携

事業をきっかけに事業実施地区である、常磐湯本地区、遠野地区、小名浜地区が地域連携について模索し始めました。

また今年度のフラオンパクは、本地区だけでなく、小名浜地区（エンディングのイベントは小名浜三角倉庫で開催）、遠野地区でも行われました。来年度は、この3地区だけでなく、いわき市全域で行う予定です。

### ふくしまの空(NTT東日本福島)

“鶴のあし湯”の状況をライブでご覧になることができます。

### 地域の課題・今後の展望

交流広場の改修、視点場整備に加え「フラオンパク」では「鶴のあし湯」を会場としたイベントを開催したことにより、多くの人に利用される交流と賑わいの拠点として活性が生まれています。

住民の高齢化を念頭におき、イベント開催や清掃活動を継続していくことで「自分たちが地域を守り、育てている」という意識をさらに高めるとともに、「他地域の活動を知ること」、「自分たちの活動を広く情報発信すること」により、魅力の再確認やモチベーションアップを図っていくことが重要です。

今後は、このポケットパークを中心に地域づくり団体の「じょうばん街工房21」や「ゆもとわくわく市民会議」を中心に地域の一体感を醸成しつつ来訪者へのサービス向上や湯本温泉郷の魅力をアピールし、来訪者の増加へつなげる地域づくりへの支援を図っていきます。

## 整備内容及び利用状況

### 交流広場整備“鶴のあし湯”



施工前



施工後

### 利用状況

- ・ 鶴のあし湯利用者  
平日：80～100人/日  
休日：150～200人/日  
H18.12.1～12.31：3,000人/月
  - ・ いわき湯本温泉観光客数  
H18 620,069人
- (利用者の声)  
無料で、あし湯に浸かれるのが良い。  
地域住民のふれあいの場となり、地域活性化に繋がっている。  
トイレがないのが不便。童謡館のトイレを使用することは可能。  
あつ湯とぬる湯の間にある手湯から滴るお湯が座席を濡らし、  
約4人分のスペースが使用できない。

### 鶴のあし湯の利用状況



イベント開催時

### 管理状況

“鶴のあし湯”を協働で管理するために“鶴のあし湯を愛でる会”が結成されうつくしま道のサポート制度を締結し、毎週木曜日に清掃が行われています。

### 公園整備“花と星の丘”



“花と星の丘公園”



“花と星の丘公園”からの眺望

湯ノ岳からの良好な眺望を目指して多くの方が訪れています。

### 管理状況

“いわき花と緑の会”とうつくしま道のサポート制度が締結。

### 関係機関

福島県いわき建設事務所企画調査課  
じょうばん街工房21(商工会議所常磐支所内)

TEL：0246-24-6117  
TEL：0246-43-2757